

奄美群島振興開発アンケート調査の概要

離島振興課

1 調査の目的

奄美群島在住者、出身者及び事業所等を対象に、定住や移住・交流する上で必要な事項や、産業振興を図る上で必要な事項等について、アンケート調査を行うことにより、今後の奄美群島振興開発の方向に係る検討に資することを目的とする。

2 調査方法

(1) 群島内住民

① 在住者(奄美群島外からの転入者を含む)

奄美群島内の18歳以上の在住者で、住民基本台帳から無作為抽出した者

② 高校生・専門学校生

奄美群島内の高等学校(9校)及び専門学校(2校)における、令和5年3月に卒業見込みの在校生

(2) 群島外住民

① 出身者

奄美群島外に居住する18歳以上の者で、無作為抽出した群島出身者

② 来訪者

奄美群島外からの来訪者で、群島内の宿泊施設に宿泊した者

※ 奄美群島内の宿泊施設を通じて、調査票を配布・回収

(3) 事業所

・ 奄美群島内の事業所(個人事業主を含む)で、業界団体名簿等を基に、当該地域における業種別事業所数や就業者数等を考慮して抽出した者

区分	配布数	回収数	回収率	前回回収率
在住者	3,400	1,469	43.2%	46.7%
出身者	600	126	21.0%	24.5%
来訪者	500	229	45.8%	65.4%
高校生等	863	808	93.6%	96.5%
群島内事業所	993	504	50.8%	61.0%
合計	6,356	3,136	49.3%	55.7%

※「高校生等」には、専門学校生を含む。

3 調査期間

令和4年7月～8月

4 前回(平成29年度)調査との主な相違点

(1) Webアンケート形式の導入

※ Web回答に不慣れな方が一定数いることを念頭に、紙形式も併用

(2) アンケート項目の整理(削減)

5 主な調査結果の概要

(1) 奄美群島振興開発事業に対する満足度（在住者）

在住者では、奄美群島振興交付金（H26年度創設）を活用し助成を行っている「航路運賃の軽減」、「航空運賃の軽減」について満足度が高い。一方、「物価の軽減」については満足度が低い。

(2) 島のイメージ（在住者，出身者）

10年前に比べて良くなったとする意見が、在住者では59.0%、出身者では57.9%を占める。

(3) 島の魅力（在住者，出身者，高校生等）

在住者，出身者，高校生等のいずれも、「豊かな自然に恵まれていること」とする意見が最も多い。

(4) 今後の来訪意向（来訪者）

来訪者の95.7%が再度奄美を訪れたいと希望しており、再訪意向が強いことがうかがえる

(5) 今後の定住・帰島意向（在住者，出身者，高校生等）

在住者の79.6%が「島内に住み続けたい」と回答し、また、出身者の63.5%、高校生等の57.3%が「群島内で暮らしたい」と回答しており、定住・帰島意向が高い。

(6) 奄美群島の今後の課題（在住者，出身者，事業所）

在住者，出身者，事業所のいずれも「人口の減少」とする意見が最も多く、次いで「少子・高齢化の進行」とする意見が多い。

(7) 島で暮らしていくために必要なこと（在住者，高校生等）

在住者，高校生等のどちらも「労働条件（給与・福利厚生等）の良い仕事があること」とする意見が最も多い。

(8) 今後力を入れたら良い産業（在住者，出身者，高校生等，事業所）

在住者では、「亜熱帯気候を生かした園芸農業（花・果樹・野菜）」とする意見が53.3%と最も多かった。出身者，高校生等，事業所では、「観光関連産業」とする意見が最も多かった。

(9) 群島が果たしている役割，今後果たすべき役割（在住者，出身者）

在住者，出身者とも、「貴重な動植物など豊かな自然環境の保全」とする意見が多く、次いで「多様で個性的な伝統文化の継承」となっている。

(10) 将来なって欲しい島の姿（在住者）

在住者では、「医療や福祉が充実した子育て・高齢者に優しい島」とする意見が最も多く、次いで「豊かな自然に恵まれた島」とする意見が多くなっている。

(11) 奄美群島における特別措置の必要性（在住者，出身者，高校生等）

「今後とも特別措置が必要である」との意見は、在住者82.1%、出身者85.7%、高校生等69.0%となっている。